



教授法開発室だより

vol.17

編集／教授法開発室
発行／佛教大学
発行日／2009年12月25日
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL.075-491-2141 FAX.075-493-9019

URL <http://www.bukkyo-u.ac.jp/>

平成21年度 佛教大学教員研修会

教授法開発室員 小林 隆

平成21年度教員研修会が下記要領で開催された。



日 時：平成21年9月16日（水）14：30～16：00

場 所：常照ホール

テーマ：授業公開を通して考える

～学生を中心にすえた授業のデザインとは～

1. 開会・本年度教員研究会の趣旨説明…八木 透 教学部長
2. 挨拶 …山極 伸之 学長
3. パネリスト・コメンテーター紹介 …八木 透 教学部長
4. 報告
 - (1) 報告Ⅰ 小林 隆（本学教育学部准教授）
 - (2) 報告Ⅱ 松本 真治（本学文学部准教授）
 - (3) コメント 圓月 勝博
（同志社大学教授 同教育支援機構長）
 - (4) 質疑応答
5. 挨拶 …清水 稔 副学長
6. 閉会 …八木 透 教学部長

【報 告】

小林と松本准教授から具体的な授業の取り組みの報告があった。順序が前後するが、項目を揃えて以下に示す。

(1) 報告Ⅰ 小林 隆（本学教育学部准教授）



①授業に対する基本的な考え方

教師が教える ×
学生同士が学び合う ○
二者択一ではなく、両者をバランスよく。

◆伝統的な授業観

学校で
教員が
教科書（テキスト）中心で教える
インプット型（知識を増やす授業）
個別学習 習得型学習
評価 = 知識の量

◆私の考える授業観

学校だけでなく
教員だけでなく様々な人（学生同士）が
学生に身近な教材から 実感を伴って学ぶ
アウトプット型（知恵を働かす授業）
協働学習 探究型・問題解決型学習
評価 = 見方・考え方
思考力・表現力

②具体的な授業 ―初等社会科教育法―

1. 講義概要の説明
グループ編成
自己紹介カードの記入
自己紹介
2. 「専門社会」の復習
小学校教員の仕事（ビデオ視聴）
担当学年と単元決定
3. 授業の基本的な考え方
平成20年版学習指導要領の方向性
4. 社会科授業の基本的な流れ（問題解決的な学習）と学習指導案
5. 授業構想と教材研究 学習指導案の様式と書き方①
6. 具体的な授業事例（ビデオ視聴） 授業検討
7. 事例研究（学習指導案 → 地域学習・国土産業学習）
8. 事例研究（学習指導案 → 歴史学習・政治学習・国際理解平和学習）
9. 授業構想と教材研究 学習指導案の様式と書き方②
10. 第1回検討会（単元の構想） ―グループにて―
11. 第2回検討会（本時の構想） ―学年会―
12. 第3回検討会（学習指導案） ―グループにて―
13. 学習指導案完成・製本 授業発表
14. まとめ ※「学習の記録」提出

③評価

- ・「学習の記録」
- ・試験

授業中に作成した学習指導案に基づき、単元構想と本時（45分授業）の授業構想を説明しなさい。なお、単元目標と本時の目標を具体的に述べること。

④その他 ―学生の感想―

現場の授業づくりのシミュレーションができて良かった。グループで活動することによって刺激になり、お互いに教え合うことで足りないところや新たな発想を自覚することができた。また、普段は話をしない学生とも交流できた。最後に完成した「学習指導案集」を手にしたとき、みんなで一つのことをやり遂げた実感がわいた。

(2) 報告Ⅱ 松本真治（本学文学部准教授）



松本准教授からは「英米・松本、己を斬る」と題して、以下の報告があった。

①授業に対する基本的な考え方

コミュニケーション重視の言語教育理論では、語学教師は促進者（facilitator）であるべきで指導者（instructor）であってはいけない。

⇒教師がいくら喋っても、学生の英語力は上がらない。

学生にいかに多く喋らせるか！

⇒これは「演習」「ゼミ」全般に共通するだろう

⇒同時に教師のエネルギー節約にもなる？（※FDは教師の苦労を軽減させるべきもの）

②具体的な授業 ―英語コミュニケーション演習―

○授業の目標

- ・英語による発信力を高める。
- ・具体的には1分間スピーチを毎回実施。
- ・とりあえず、人前で英語で1分間以上の話をすることに慣れる。
- ・文法的な正確さ（accuracy）よりも流暢さ（fluency）を追及。
- ・最も重要なのは聞き手に伝わったか（communication）

○授業の概要

- ・事前にテーマを与えておく。
- ・もちろん暗唱。
- ・発表した学生が次の発表者を指名。
- ・最初の発表者は前授業での最後の発表者（⇒テーマもその学生が決める）。
- ・聴衆は、それぞれのスピーチの概要を1行程度の日本語または英語にまとめてメモ書き。

③評価

- ・最終テスト以外、通常、教師は評価をしない。時に学生同士で相互評価させることもある。
- ・拍手の大きさと相互評価となっている。
 - ⇒興味深い内容で、聞き手が理解できると自然に拍手が大きくなる。
 - ⇒内容がつまらない、英語自体が分からない場合は、拍手は義務的なものになる。

④その他 ―工夫した点―

工夫した点は、ずばり「雰囲気づくり」。そのために机を並べかえ、発表者の顔が見えるようにする。スクール形式ではコミュニケーションしづらい。教室の前に出ると学生は緊張気味。学生主体の授業にする。教師の役割が少なくなる。

【コメント】

以上の報告と本学のFDの取り組みに対して、圓月教授からコメントがあった。

(3) コメント 圓月勝博

(同志社大学教授 同教育支援機構長)

①二つのFDをつなぐ

- ・「狭義のFD」＝授業内容・方法の改善のための研修等
目的：教育課程運営の改善
- ・「広義のFD」＝職能開発 目的：大学教員人材育成

*用語解説 ― 広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発

「スペシャリスト」から「プロフェッショナル」へ
「スタンドプレー」から「チームプレー」へ

②質保証システムとしてのFD

シラバス中心の組織的FD (PDCA サイクル質保証型FD)

Plan (目標設定) : 科目目標と授業計画

Do (実行) : 単位の実質化
(1単位45時間の学習時間)

Check (点検) : 成績評価の厳格化

Action (改善) : 教育内容・方法の改善

③FDとPDCAサイクル

◆PLANの点検・評価項目

- ・科目の到達目標が明確に記述されているか
(到達目標は学生を主語にしてできるだけ具体的に)
×「(教員が) 仏教の国際性を語ってみたい」
○「(学生が) キリスト教に対する仏教の民族文化的優越性を説明できるようになる」
- ・科目の到達目標は適切か
×「(学生が) キリスト教に対する仏教の民族文化的優越性を説明できるようになる」
○「(学生が) 世界宗教の一つとしての仏教の特徴を客観的に説明できるようになる」
- ・授業計画及び学習時間は適切か (1単位＝45学習時間)

◆DOの点検・評価項目

- ・授業はシラバスに従って実施されているか
- ・授業運営は適切か
- ・成績評価基準は明確か

◆CHECKの点検・評価項目

- ・学生による評価結果はどうであったか
- ・担当者自身による評価結果はどうであったか
- ・同僚による評価結果はどうであったか

◆ACTIONの点検・評価項目

- ・「学位授与の方針」に改善の余地はないか
- ・「教育課程編成・実施の方針」に改善の余地はないか
- ・教育内容に改善の余地はないか
- ・教育方法に改善の余地はないか
- ・教育環境に改善の余地はないか
- ・教員組織に改善の余地はないか
- ・学生実態把握に改善の余地はないか
- ・「入学受入れ方針」に改善の余地はないか

④教授法開発とFD

- ・教室に始まり教室に終わるが、教室だけでは完結しないFDを目指して。
- ・「職業としての学問」とは何か ―学問の実践 学問の応用―



【おわりに】

「授業公開を通して考える～学生を中心にすえた授業のデザインとは～」のテーマで開催された教員研修会であった。2件の授業報告では、授業の基本的な考え方や評価の在り方に共通点があった。圓月教授のコメントに、2件の授業報告や本学のFDの取り組みを振り返る基本的な視点が示されていた。複数の教員からも質疑や意見が出され、有意義な教員研修会となった。



BUKKYO UNIVERSITY